

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	16H06310	研究期間	平成28(2016)年度 ～令和2(2020)年度
研究課題名	海洋GNSSブイを用いた津波観測の高機能化と海底地殻変動連続観測への挑戦	研究代表者 (所属・職) (平成31年3月現在)	加藤 照之 (神奈川県温泉地学研究所・所長)

【令和元(2019)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究は、海洋ブイを使った津波計測に衛星通信を導入して機能及び精度を向上させるとともに、海底地殻変動の連続観測手法を開発し、総合防災ブイの展開に資する基礎データを取得することを目的とするものである。これまでの研究で、船舶による衛星通信を用いた連続観測データを基に、ブイによる連続観測が可能となった。また、海底地殻変動連続観測のため、海底局を設置し、ブイによる海底測位を行い、船舶による海底測位と比較して、当初目標である±2cmで海底局アレイの形状を決定した。その他、本研究で取得したデータを、気象学や電磁気学へ応用するための解析を行い、研究成果を公表している。本研究では、外的要因を含むいくつかの事情により当初目標からの遅れが一部認められるものの、これらの問題点を克服しながら研究を進めており、今後の継続した努力により期待どおりの成果が上げられることを期待する。</p>	